感　染　症　発　生　動　向　調　査　速　報

2026年　第43週　　令和8年10月19日 ～ 令和8年10月25日

送信先	感染症週報登録関係機関担当者　様	送信日	令和8年10月29日　（木）

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	38w	39w	40w	41w	42w	43w
インフルエンザ	インフルエンザ	10	30	10	9.33	11.7	41.7	29	15.67	7.33
COVID19	新型コロナウイルス感染症	－	－	－	0	0	0	0.33	0	0.00
小児科	ＲＳウイルス感染症	－	－	－	2	0	0.5	0	0	0.00
	咽頭結膜熱	－	3	1	0	0	0	0	0	1.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	－	8	4	0	0	0	0.5	0	0.00
	感染性胃腸炎	－	20	12	3.5	1.5	3.5	2	1	1.00
	水痘	1	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	手足口病	－	5	2	0.5	0	0	0	0	0.00
	伝染性紅斑	－	2	1	0	0	0.5	0	0	0.00
	突発性発しん	－	－	－	0	0	0	0	0	0.00
	ヘルパンギーナ	－	6	2	0	0	0	0	0	0.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0	0	0	0	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	－	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	－	8	4	1	0	0	0	0	1.00
基幹	細菌性髄膜炎	－	－	－	0	0	0	0	0	0.00
	無菌性髄膜炎	－	－	－	0	0	0	0	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	－	－	－	0	0	0	0	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	－	－	－	0	0	0	0	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	－	－	0	0	0	0	0	0.00
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(ＡＲＩ)	－	－	－	32.00	27.33	55.00	47.67	31.67	19.67

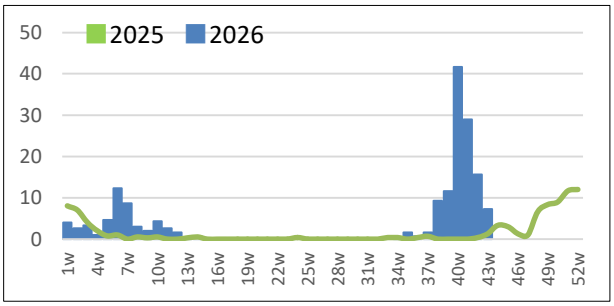


図1　インフルエンザ発生状況(定点当たり)

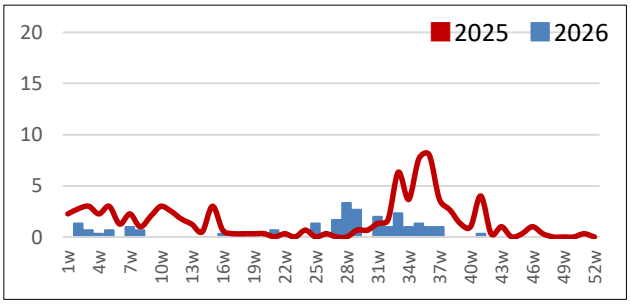


図2　新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

警報発令	なし
注意報発令	なし
全数報告届出	なし

【通信欄】

■ 五島地域に警報を発令していましたインフルエンザについては、報告数が7.33となりましたので、警報を解除します。発生数は減少傾向ですが、県内の約半数の地域で現在も注意報が発令されており、引き続き、注意が必要です。 外出後の手洗いや有症状時のマスク着用、早期受診（架電後）、定期的な換気等、基本的な感染対策に努めていただきますようお願いします。

■ 県週報のトピック
①マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう。
②11月は「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」です。
③インフルエンザを予防しましょう。

全国・県・五島の発生状況は県ホームページを参照　https://www.pref.nagasaki.jp/section/gt-h-kikaku/
（お問い合わせ）　長崎県五島保健所　企画保健課　TEL0959-72-3125　担当：馬郡、福本

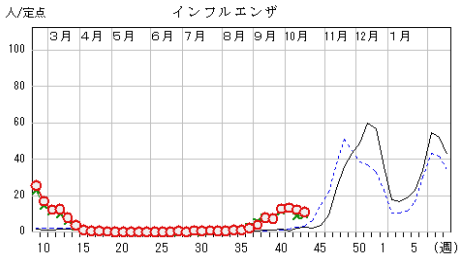
長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第43週　　2026年10月19日（月）～2026年10月25日（日）2026年10月29日作成

☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

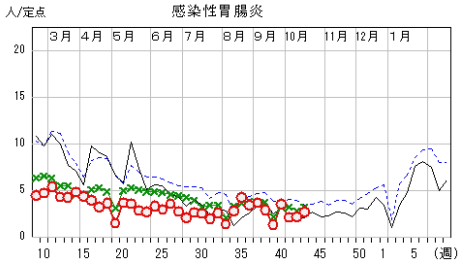
（１） インフルエンザ

第43週の報告数は540人で、前週より74人少なく、 定点当たりの報告数は10.80であった。
年齢別では、10～14歳（154人）、15～19歳（35人）、７歳（31人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（15.18）、県南保健所（14.00）、上五島保健所（13.33）であった。



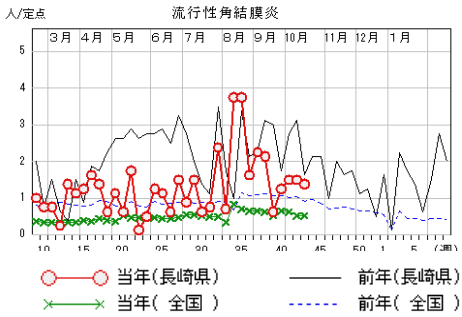
（２） 感染性胃腸炎

第43週の報告数は84人で、前週より17人多く、 定点当たりの報告数は2.71であった。
年齢別では、１歳（16人）、２歳（11人）、４歳（10人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（10.50）、西彼保健所（5.00）、佐世保市保健所（4.75）であった。



（３） 流行性角結膜炎

第43週の報告数は11人で、前週より1人少なく、 定点当たりの報告数は1.38であった。
年齢別では、６歳（2人）、20～29歳（2人）、40～49歳（2人）が多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（6.00）であった。



※急性呼吸器感染症定点数：50、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位３疾患の概要

【インフルエンザ】
第43週の報告数は540人で、定点当たりの報告数は10.80でした。県全体では第40週に注意報レベル基準値「10.0」を上回り、県地域保健推進課より**インフルエンザ流行注意報**が発表されています。地区別にみると、長崎地区（15.18）、県南地区（14.00）、上五島地区（13.33）、対馬地区（11.67）、佐世保地区（10.86）は注意報レベルの報告数となっています。
インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。
今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】
第43週の報告数は84人で、定点当たりの報告数は2.71でした。地区別にみると、県北地区（10.50）、西彼地区（5.00）、佐世保地区（4.75）は他の地区より多くなっています。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【流行性角結膜炎】
第43週の報告数は11人で、定点当たりの報告数は1.38でした。地区別では、県南地区（6.00）が他の地区より多くなっています。
本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いので、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

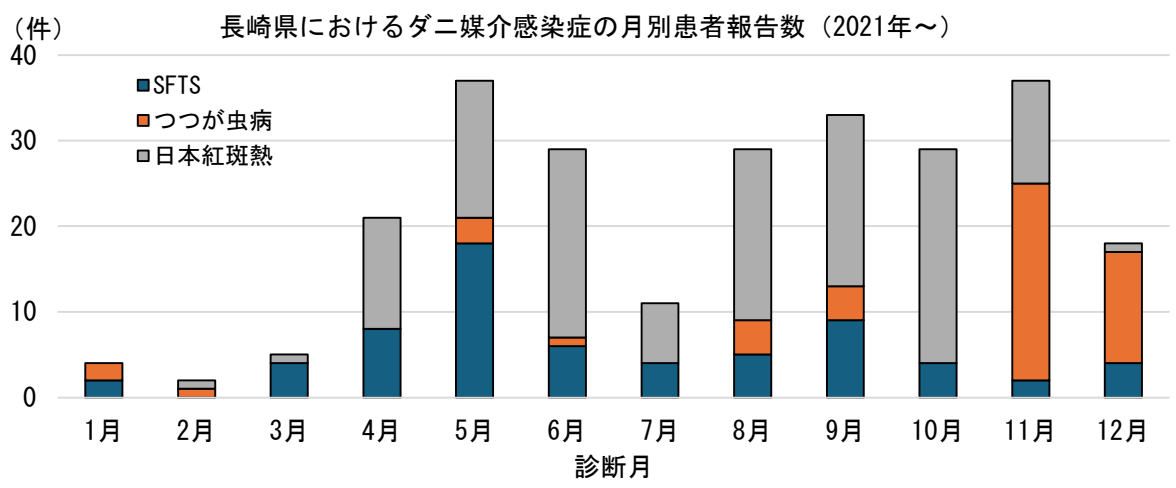
☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。
県内では、４月以降、SFTS 9件、日本紅斑熱 25件、つつが虫病1件の報告があがっています。
マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。 また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。
SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021年	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (6)	13 (11)	13 (10)	13 (11)	12 (12)	9
日本紅斑熱	28 (23)	22 (19)	14 (13)	24 (19)	25 (22)	25
つつが虫病	14 (4)	7 (0)	15 (6)	11 (3)	2 (0)	2

※（ ）は第43週までの発生件数



☆トピックス：１１月は「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」です

国は、平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。

「薬剤耐性」とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。

薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためには、一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。抗菌薬は、医師の指示どおりに適切な量を適切な期間飲みましょう。他の人に処方されたもの、家に残っているものを自己判断で飲まないようにしましょう。

また、抗菌薬の使用機会を少なくするために、感染症を予防すること、周りに拡げないようにすることも重要です。日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、適切なマスクの使用などで感染予防に努めましょう。

（参考）AMR臨床リファレンスセンター：AMR対策推進月間キャンペーンサイト
https://amr.jihs.go.jp/information/campaign2026.html

☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう

2026年第43週（10月19日～10月25日）の患者報告数は540人で、定点当たり報告数は10.80となりました。県地域保健推進課は、10月8日に**インフルエンザ流行注意報**を発表しています。

地区別にみると、長崎地区（15.18）、県南地区（14.00）、上五島地区（13.33）、対馬地区（11.67）、佐世保地区（10.86）で注意報レベルの報告数となっています。

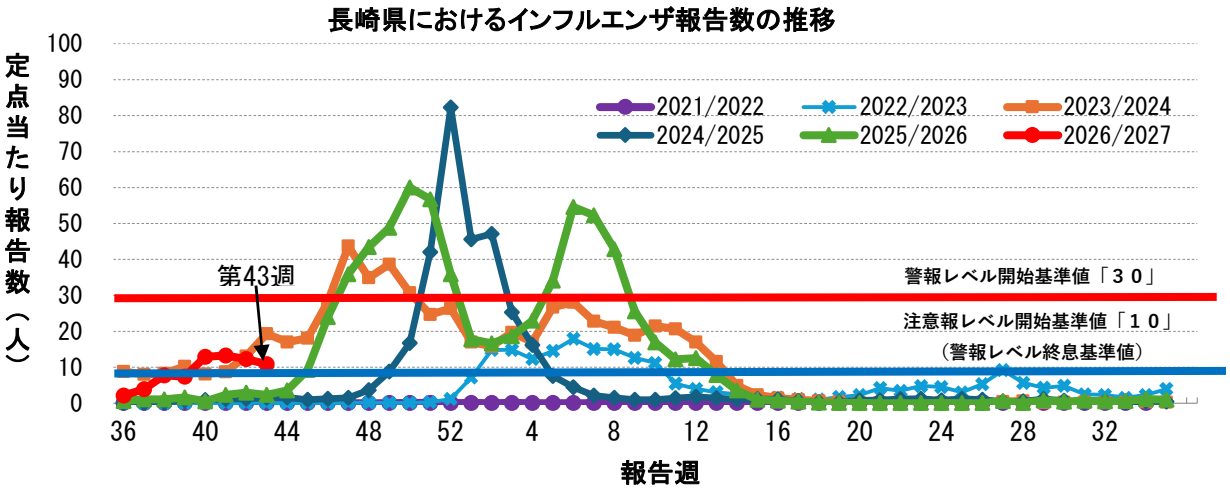
年代別では、10歳未満（40%）、10代（35%）が多く、小中学校の臨時休業が報告されています。

注意報が発表され、今後大きな流行が懸念されますので、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

（参考）厚生労働省　「インフルエンザ総合ページ」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

（参考）長崎県地域保健推進課　「2026/2027シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等」
https://www.pref.nagasaki.jp/doc/52195.html

（参考）長崎県感染症情報センター　「インフルエンザ」
https://www.pref.nagasaki.jp/doc/page-685285.html



インフルエンザの保健所別報告数

	長崎県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
報告数	540	76	167	7	43	76	56	18	22	40	35
定点数	50	7	11	3	5	8	4	3	3	3	3
定点当たり報告数	10.80	10.86	15.18	2.33	8.60	9.50	14.00	6.00	7.33	13.33	11.67

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核　患者　男性（80代以上・1名）　女性（20代・1名、50代・1名）
3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症　患者　男性（10代・1名）
無症状病原体保有者　女性（60代・1名）
4類感染症：日本脳炎　患者　女性（70代・1名）※10月21日佐世保市公表分
5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症　患者　男性（80代以上・1名）
劇症型溶血性レンサ球菌感染症　患者　男性（70代・1名）
侵襲性肺炎球菌感染症　患者　男性（70代・1名）
水痘（入院例）　患者　男性（10代未満・1名）
梅毒　患者　男性（30代・2名）

◆定点把握の対象となる５類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第38～43週、9/14～10/25）

疾患名	定点当たり患者数					
	38週	39週	40週	41週	42週	43週
	9/14～	9/21～	9/28～	10/5～	10/12～	10/19～
インフルエンザ	7.72	7.34	12.84	13.26	12.28	10.80
新型コロナウイルス感染症	1.28	0.58	1.10	0.52	0.46	0.60
ＲＳウイルス感染症	1.10	0.61	0.81	1.06	0.52	0.39
咽頭結膜熱	0.32		0.32	0.26	0.19	0.32
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.65	1.19	2.10	2.10	1.29	1.29
感染性胃腸炎	2.94	1.35	3.52	2.13	2.16	2.71
水痘	0.42	0.03	0.61	0.26	0.48	0.13
手足口病	0.32	0.10	0.19	0.23	0.19	0.16
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.10	0.06	0.03	0.03	0.03	
突発性発しん	0.39	0.23	0.29	0.26	0.29	0.13
ヘルパンギーナ	1.32	0.71	0.97	0.84	0.61	0.90
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03			0.03		
急性出血性結膜炎	0.13					0.13
流行性角結膜炎	2.13	0.63	1.25	1.50	1.50	1.38
細菌性髄膜炎			0.08			0.25
無菌性髄膜炎				0.08		0.08
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.08	0.50	0.17	0.17	
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	65.82	42.00	60.38	69.10	59.28	60.50

（2）　疾病別･保健所管内別発生状況　　（第43週、10/19～10/25）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	10.80	10.86	15.18	2.33	8.60	9.50	14.00	6.00	7.33	13.33	11.67
新型コロナウイルス感染症	0.60	0.57	0.36			0.25	0.75			1.00	4.67
ＲＳウイルス感染症	0.39	0.25	0.83		0.67	0.20	0.33	1.00			
咽頭結膜熱	0.32				0.67	0.20		2.00	1.00		0.50
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.29	0.75	0.83		1.33	0.80	6.67	1.00			1.00
感染性胃腸炎	2.71	4.75	1.00	3.00	5.00	2.80	0.33	10.50	1.00		
水痘	0.13	0.25		1.00	0.33						
手足口病	0.16		0.50		0.33					0.50	
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.13	0.25	0.33				0.33				
ヘルパンギーナ	0.90	1.00	2.00	0.50	0.33	1.00		2.00			0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	1.38	1.00	1.00				6.00		1.00		
細菌性髄膜炎	0.25	3.00									
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎											
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	60.50	69.43	96.82	10.67	88.40	57.25	33.50	31.33	19.67	38.00	47.00